

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2770301162		
法人名	株式会社エフ・エム・シー介護サービス		
事業所名	FMCグループホーム(3階)		
所在地	大阪府寝屋川市本町16番5号		
自己評価作成日	平成27年3月16日	評価結果市町村受理日	平成27年4月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 MIRO谷町 4階		
訪問調査日	平成27年4月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「すべての認知症高齢者の方に対し、尊敬の意を持ち、受け入れる事」が介護支援の根本であると考えています。介護スタッフにおいては「生き生きと元気で楽しい共同生活」及び「さりげなく優しく、さりげなく見守る」といった、認知症高齢者主体の介護を行うべく日々努力を重ねております。事業にあたっては、「笑顔で心穏やかに。時には思いを打ち明け、共に涙できる環境づくり」を目指し、地域住民の方々との関係性の向上、並びに地域内連携を綿密に図りながら行政との連携に努めております。また、昨年度より始動した「鍵預かり事業」に協力施設として締結し、地域の一員として、地域の高齢者の方々の力に成るべく努めております。散歩の際には、地域の方々と挨拶を交わし、笑顔でコミュニケーションを交し合える。そんな地域に根差したグループホームが私たちのホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

京阪電鉄寝屋川市駅下車徒歩8分、生活圏として利便性良好な地に開設されている。5階建てのビルの3、4、5階で3ユニットをグループホームとして運営されている。平成15年に開設、地域との交流も活発で信頼され安定している。「笑顔あふれる介護」を基本コンセプトに高齢者の方が「いきいきと元気で心穏やかに暮らす」お手伝いをさせて頂きます。を念頭に館長と共に全職員のチームワークよろしく運営されている。地域独居老人の「鍵預り事業」や「介護何でも相談所」等、社会福祉協議会と共に地域に根差した活動を行っている。施設の園芸には地域のボランティアが加勢し利用者と共に楽しみを共有することもある。利用者にとっての関心事の食事は各フロアに調理専門の人員を配置、利用者の状況に応じた内容のものが用意され職員と和やかな雰囲気の中で楽しんでいる。災害に関しては地域・自治会と防災連携体制も充実し現在、福祉避難施設所との協力要請の話が進められている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスとして、グループホームを地域に開かれたものとし、利用者が孤立することなく生活できるように努力している	理念・心得10項目はエントランス、各フロアに掲示されている。各会議や日々の申し送り時に、振り返りながら介護実践に活かされるよう努めている。職員間では浸透している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治体にも施設が存在が浸透しており、自治体の催しに参加する機会も増えています。今後も日常的な交流が持てるよう努めている。	地域の自治会に加入している。自治会主催の各種イベントには参加交流し顔見知りとなり、散歩時に近所の人から声掛けをされることもある。地域の一員としても見守られながらの存在感がある。	地域の支援に堪える手法として、出前講座を担当し職員のレベルアップにつなげたり福祉関連の相談を受け付ける等で地域貢献を今後に向け企画検討を望まれる
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方がいつでも相談できるよう相談窓口を作りわかりやすくアドバイス、又は協力できるよう努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で出る意見は職員からの目線ではなく地域の方や包括など多方面からのものが多いのでそういった意見やアドバイスなど参考にさせて頂きサービスの向上に活かしている	会議は隔月に開催、参加メンバー構成も豊富、議題に対する意見交換も活発で介護サービス向上に繋げ有意義な取り組みがなされている。会議結果は不参加だった職員や利用者家族にも周知を図っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	積極的に連携をとり協力関係を築いていけるように努めている	市の高齢介護室、包括支援センターなど行政と密接な連携を取り、報告・連絡・相談は円滑に行われている。お互いに協力関係を強化の取り組みがされサービスの質の向上に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を発足し定期的に会議を行い、身体拘束・虐待を防止するため毎月スローガンを掲げ、勉強会を開くなどして身体拘束や虐待防止の徹底に取り組んでいる。また、車の通りの多い立地にある理由から利用者様の安全を考え玄関の扉等の施錠はしています	研修・勉強会を通して「身体拘束」に関する基準は全職員理解している。ただベットの転落予防で1カ所のみベット柵を取りつけている人もある。事業所前の道路は自動車の往来で交通量もかなりある。関係者の理解のもと安全を考慮し、玄関扉とエレベーターは施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会で定期的に会議を開く際には身体拘束と虐待防止を別のもので考えず、常に職員同士で話し合えるようにしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	内部・外部の研修で権利擁護の理解に努め、必要性のある利用者様には地域包括センターや社会福祉協議会とも連携をとりながら支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族の方に不安や不明な点が残らない様、話し合い、十分な説明を行い、理解納得して頂けるように努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、家族との交流時・家族が意見や要望を言いやすい環境をつくりその意見を参考にし運営に反映させるようにしている	意見箱はあるが利用は少ない。情報収集できるように話しやすい雰囲気作りの努力をされている。館長は声掛けしやすい場に席を設け、各階フロアではコミュニケーションに努め意見や要望事項等を運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議などで職員の意見や提案を聞くようにしそれらを参考にし運営に反映させるようにしている	毎月開催の各種会議や年2回の館長との個人面接の折に、職員の意見を把握するようにしている。上司は提案・意見などを真摯に受け止め対応してくれると、職員は全面的信頼を寄せている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休や勤務体制を出来るだけ希望に添えるよう努力しており、資格取得なども職員が向上心を持って働けるようにしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会を開催したり外部研修などにも積極的に参加してもらい職員の意識レベルの向上を図りケアの質の向上に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	積極的に外部研修に参加することで交流の場をもちサービスの向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約の段階で利用者様・家族様の悩みや要望などを聞かせて頂き、安心して頂けるようなサービス提供を行う事で良い関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の意見や要望などはなしをよく聞き、言える環境づくりに努め不安や悩みを一緒に解消し安心して頂けるような関係づくりの努力をしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自施設での対応が困難な時は利用者様・家族様の理解・了承を得た上で他のサービスを含めた対応を行うよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の方には自身でできる事はして頂き、人の役にたつ・必要とされているという喜びを感じて頂き共に過ごし支え合う関係づくりに努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様にも行事に参加して頂いたり、来られた際には共に利用者様を支え合うように努力している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前の生活での馴染みの方などに来訪して頂いたり、関係継続に努めている	馴染みの人が面会に見えたり、散歩に出かけた時に声掛けされたり、ふれあい喫茶、に出向いたり馴染みの人や場には出向き関係継続の努力をされている。職員の年齢に幅があり定着もよく、アットホームな人的環境にも努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個人の性格や感情の変化を理解した上で利用者同士が関わり、交流する場を設け支え合える関係をもてるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族様の理解を得たうえでご入院された方のお見舞いや訪問させて頂き関係を保ち相談や支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様個人の思いや要望などの理解に努め出来る限り要望に添った暮らしができる様に支援している	利用者の言動、表情から推察したり、散歩、入浴介助時に会話を通して希望や意向をくみ取るようにしている。カンファレンス時に必要な情報は同僚間で共有するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様・家族様・ケアマネージャーから情報収集を行うよう心がけている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活を細部まで観察し発言や仕草などから心身状態など現状を把握する様努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者本人様が本人らしくあるために必要な関係者とよく話し合い意見などを反映した介護計画を作成し、よりよく暮らして頂けるようにその都度行っている	介護計画作成手順に沿ってケアマネージャーを中心にスタッフ全員参加、関係者の意見も取り入れ、利用者各人の現状に即した介護計画を作成している。経過の中で要望などがあれば反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録には個人の日常生活の詳細までを記載するようにし、カンファレンスなどで職員間で情報を共有しケアの実践や計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様・家族様の希望に応じて施設内の整骨院やジムなどで体操をしたり、その時々でニーズに合わせた柔軟な対応がとれるよう取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会の行事に参加させていただいたり、近くを散歩する際には挨拶を行っています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様・家族様の希望を重視し適切な医療が受けられるよう、往診などで詳細を伝えるように努めている	従来からのかかりつけ医に数名受診しているが、他の人は提携医(内科・歯科)の月2回の往診、訪問看護・非常勤看護師も健康管理にかかわっている。緊急時に対応可能な総合病院も近隣にあるなど医療関係の支援体制は恵まれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に個人の日々の観察の詳細や情報・変化などを伝え、適切な受診や看護が受けられるよう支援し、指示が出た際には職員間できちんと申し送りをするようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際看護師を通し情報交換を行い、通院などには家族様の了承を得て付き添い病院関係者との関係づくりに努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に方向性などを話し合い、必要な段階や入居者様・家族様の気持ちの変化などがある時など、主治医・看護師・職員と十分に話し合いチームでの支援に取り組んでいる	入所時に重度化や終末期に施設の方針は説明し意向は聴取記録している。提携の往診医は24時間連絡可能で個人の状態に応じ、その都度話し合いチームで対応している。昨年は終末期の看取りを4件体験している。マニュアル・書類・職員研修なども確立している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを元に、勉強会を行ったり、積極的に研修を受けたり、会議の都度何度も確認し合い、身に付けていくようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者を筆頭に火元責任者を各階に配置し地域の方にも協力していただき定期的に避難訓練を行っている。また災害対策マニュアルを作成し火災時水害時地震時に分け身に付ける為勉強会も行っている	防火管理者、防災委員を核とし、消防署や自治会との連携で訓練を実施している。地域の防災訓練に参加し相合支援の態勢づくりはできている。地震対策の家具転倒防止装備や備蓄・3日分は各ユニットに準備されている。	当施設に対して水害時の地域福祉避難場所としての要請の話が進行中である。スタッフも積極的に課題に取り組み場面設定のミニ訓練も考えている。さらなるスキルアップを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の人格を尊重し、職員は誇りやプライバシーを損ねない声掛けや敬う心を忘れず思いやりの心を持って対応するよう努めている	利用者は職員にとって人生の先輩であり、個人の人格を尊重することを念頭に置いている。コミュニケーション時の言葉かけにも細心の注意を払っている。書類関係の保管は適切に管理されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の言葉や思いなどで惑わさぬように気を配り利用者様の思いや希望を自己決定に結び付けるよう働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様個人のペースで生活できるように努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様個人に合った身だしなみや好みのおしゃれができるように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しめるよう利用者様と職員と一緒に食事をしたりおやつなども作ったりしている	専門の調理師が各フロアに配置、食材は業者から配送されて昼・夕食を準備、朝食は夜勤者が準備する。行事食・おやつ作りは利用者の関心事である。園芸の収穫野菜が調理されたりと食事はみんなで楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量はチェック表で把握できるようにし食事形態も個人に合わせている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後利用者個人の口腔状態や本人の力に応じ口腔ケアの実施に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握しトイレで排泄できるよう声掛けや誘導を行い自立に向けた支援を行っている	入所した人の中には排泄自立の向上した人もあるが、自立・布パンツの人は1割程度で大部分の人がリハビリパンツを使用している。排泄リズムや仕草などを察知しトイレ誘導を試み自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因を理解し、ヨーグルトや果物をとりいれたり散歩をすることで腸の働きを鈍らない様にするなどしている。また腹部マッサージも行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様の体調などを考慮した上で、出来る限り本人様の入浴したいタイミングで入浴して頂き気持ちよく楽しんで頂けるように支援している	週2回を基本としている。時には季節の菖蒲湯、柚湯あるいは入浴剤を取り入れ楽しんでいる。拒否の人はタイミングを見ながら融通をしながら行っている。利用者の希望で同性介助や介助者指名もあるが対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様個人の生活スタイルに合わせ休息して頂いたり気持ちよく眠れるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用、用法や用量について理解するよう努め、服薬の支援に努めている。また症状の変化の確認などは個人記録に詳細を記入し医師や看護師と相談するようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いや喜びのある日々を過ごして頂けるように職員と共に役割、楽しみごとに参加するなど気分転換の支援をしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の希望に添える様、家族様や地域の方に協力して頂くように努める	近隣の地藏様、公園、周辺の散歩、玄関横の畑で外気に触れる等、利用者の希望も取り入れ様々な機会に気分転換を図っている。季節によりお花見に行ったり自治会主催の運動会に参加したり地域の人や家族の協力を得ながら支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は職員が行っています。本人様の要望や必要なものがあれば家族様に相談しています。本人の希望があれば家族様に了承を得て本人様にお渡ししています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様や大切な方に本人様自らが電話したり手紙のやり取りができる様、職員がお手伝いさせて頂いている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心・安全に過ごして頂けるように努めている。不快や混乱を招くことのないよう配慮し、生活感・季節感を取り入れその時々にあったものを工夫するように努めている	共用空間は掃除も行きとどき整然としている。利用者の作品が飾られ温かい雰囲気醸し出されている。各階の個性が装飾の色彩にも出ている。温度調節はエアコンで換気は適宜行なわれ、リビングからはベランダの植物や陽光より季節感を得られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間で独りになれたり、気の合った利用者同士で過ごせるよう、席の配置やリビングの空間を工夫するように努めている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人様の意向に添って馴染みのものを置いたり配置なども相談し今まで生活してきた環境に近づけ居心地良く過ごせるように支援している	居室には従来からの家具・テレビ・椅子・ぬいぐるみ等が持ち込まれている。各人の趣味や趣向で居室空間に個性が窺われる。居室内の動線も安心・安全を考慮し物品が配置されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様に安心・安全に過ごして頂けるように工夫した環境づくりに取り組んでいる		